10月HUGだより

情報提供：やましろ小児科　山城 武夫

テーマ：流行りの感染症

今年もインフルエンザの流行期に、この原稿を書こうとしている時には東京をはじめ三重県では四日市の高校で学級閉鎖がありました。2019年新型コロナ感染症の流行以来、個々のウイルスの変異があり、また、猛暑、集中豪雨（線状降水帯の発生）等世界的な異常気象のため環境の変化、我々の生活様式の変化、交通機関の発達により世界の距離が、時間が感染症のことを考えるうえで考慮する必要が出てきました。インフルエンザのワクチン開始前に感染者（児）が、また、新型コロナの発症も依然として出ています。

今年のインフルエンザはH_3N_2系統（A香港型）の変異株で「サブグレードK」が注目されています。8月中旬から感染報告があり1999年以降2番目に早いシーズン入りとなりました。東アジアや国内ではH_1N_1（Aソ連型）も報告されています。



「サブグレードK」は従来株から変異しているため我々の集団免疫が十分受け継がれていない可能性があり、早期流行、拡大の一因となっているようです。また、海外との往来の回復、コロナ禍を経てインフルエンザに対する社会全体の免疫の変化などの要因が考えられます。ワクチン株もその変化に対してA型2株、B型1株も昨年から3株すべて直近の流行を踏まえて変更されていますが、ワクチン接種は始まったばかり間に合うでしょうか。症状は38℃以上の急な発熱、関節痛、筋肉痛、強い倦怠感が特徴です。



夏の感染症は3つあります。手足口病、咽頭結膜熱（プール熱）、ヘルパンギーナです。三重県では2024年と今年の夏に手足口病が流行しました。稀に脳炎を起こしますので注意しましょう。

新型コロナは5類に移行してからも1年を通じた発症が見られ、全年齢に分布していますが、9歳～19歳に多く、中でも10歳～19歳では全体の約30%を占めています。若年者の予防接種3回完了者は低いようです。これも一因と考えられます。症状は発熱（37.5℃以上）のどの痛みが多く見られ、咳・痰・鼻水があり、



症状は1週間以以上続くことがあります。その他頭痛、倦怠感、関節痛、筋肉痛も現れることがあります。味覚・臭覚障害は初期のころに比べると少ないようです。また、基礎疾患・予防接種歴・既感染歴によってもかなり異なります。抗原検査が陽性で、症状が長引く場合は医療機関の受診をお勧めします。抗ウイルス薬の使用のタイミングは発症から5日以内が原則です。かかりつけ医とよくご相談ください。

感染症の予防は手洗い、うがい、三密の回避が大切です。